RESASを用いた鎌倉市の分析

2023年2月21日 鎌倉商工会議所

テーマ

- 1. 人口
- 2. 産業構造
- 3. 小売業・卸売業
- 4. 製造業
- 5. 地域経済循環
- 6. まちづくり・観光

1.人口

年齡別人口推移

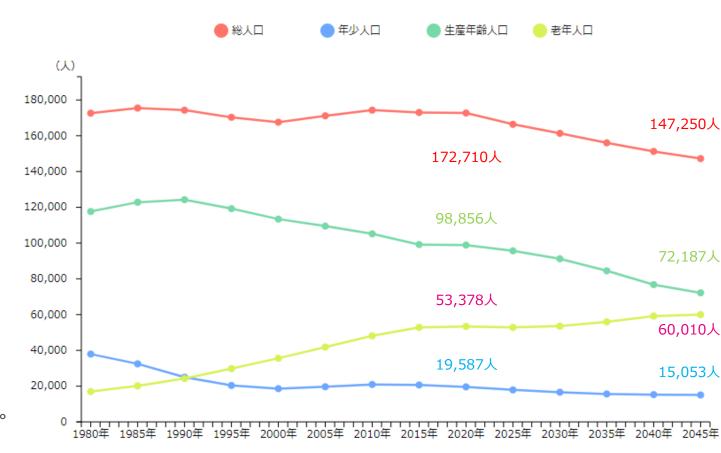
2020年の人口は総人口172,710人。10年前(2010年)の174,314人と比較して僅かに減少している。今後も人口の減少に伴って

総人口は減少傾向となる見込みである。

年代別 に近年の傾向をみると、

- ①年少人口は2000年までは減少を続けていたが以降は横ばいとなっている。
- ②生産年齢人口は 1990 年以降 減少傾向。
- ③老年人口は2045年に総人口の約4割。

総人口に占める老年人口の割合が高くなる ことが予想される。



年少人口 …15 歳未満の人口

生産年齢人口…15歳以上65歳未満の人口

老年人口 …65 歳以上の人口

1.人口

人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。

2020年は「逆ひょうたん型」、

2045年は「逆ピラミッド型」に近い。

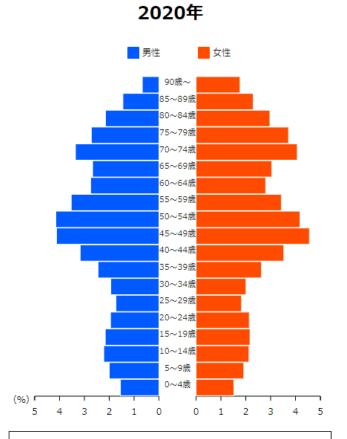
老年人口 の割合をみると、

2020年の30%から2045年には40%まで

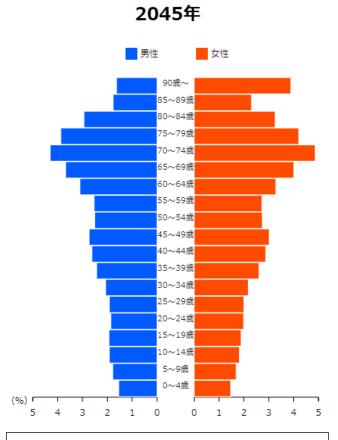
増加する。

一方、生産年齢人口は2015年の57%から

2045年には49%まで減少する見込みである。



老年人口(65歳以上):53,378人(30.91%) 生産年齢人口(15歳~64歳):98,856人(57.24%) 年少人口(0歳~14歳):19,587人(11.34%)



老年人口(65歳以上):60,010人(40.75%) 生産年齢人口(15歳~64歳):72,187人(49.02%) 年少人口(0歳~14歳):15,053人(10.22%)

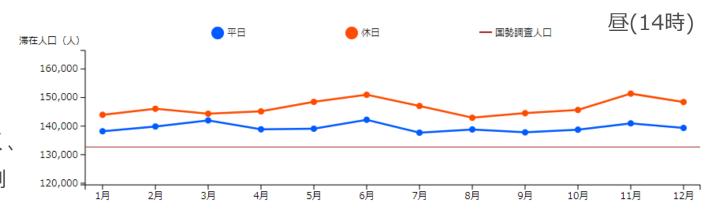
1.人口

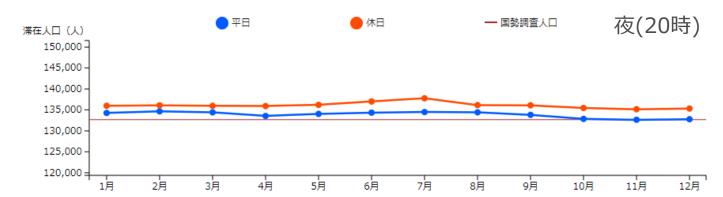
滞在人口

鎌倉市に滞在している人の数を月ごとに 示したグラフである。

平日の夜間人口よりも昼間人口の方が多く、 日中は鎌倉に来る観光客が多いことが推測 される。

※昼間は14 時、夜間は20 時のデータを 掲載している



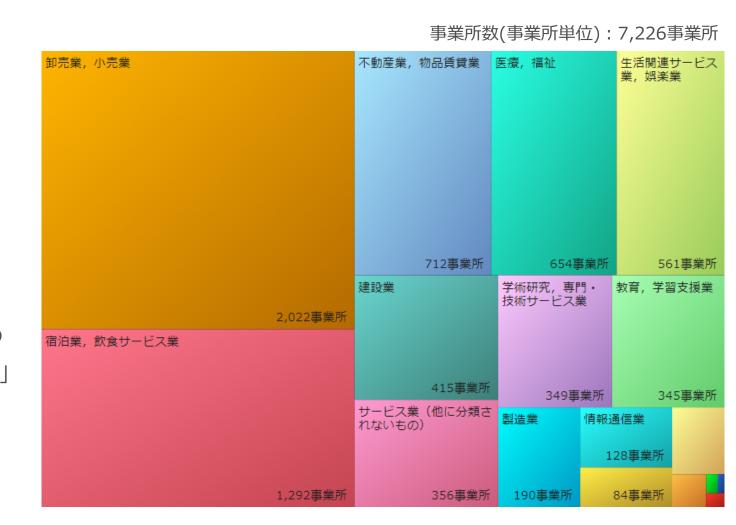


事業所数(事業所単位) 大分類

業種ごとの事業所数を面の大きさ で示したグラフである。

もっとも多いのは「卸売業, 小売業」で 2,022事業所(全体の27.9%)。

その後、「宿泊業、飲食サービス業」の 1,292事業所、「不動産業、物品賃貸業」 の712事業所が続く。



事業所数の推移

事業所数の推移をみる。

2016年の事業所数は7,226事業所。

7年前の2009年と比較すると

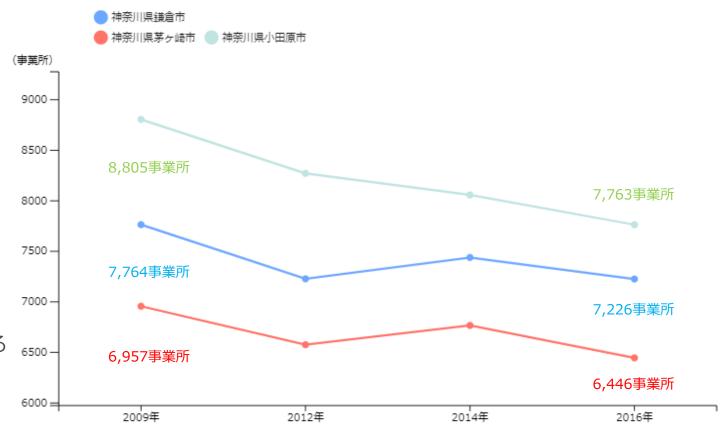
6.9%減である。

他地域をみると、小田原市は11.8%減、

茅ヶ崎市は7.3%減となっており、

いずれの地域も近い割合で減少している

ことが分かる。



従業者数(2016年)

業種ごとの従業者数を面の大きさ で示したグラフである。

もっとも多いのは「卸売業、小売業」で 13,791人(全体の20.0%)。

その後、「医療、福祉」の12,317人、 「宿泊業、飲食サービス業」の9,955人 が続く。

従業者数(事業所単位):68,800人



従業者数の推移

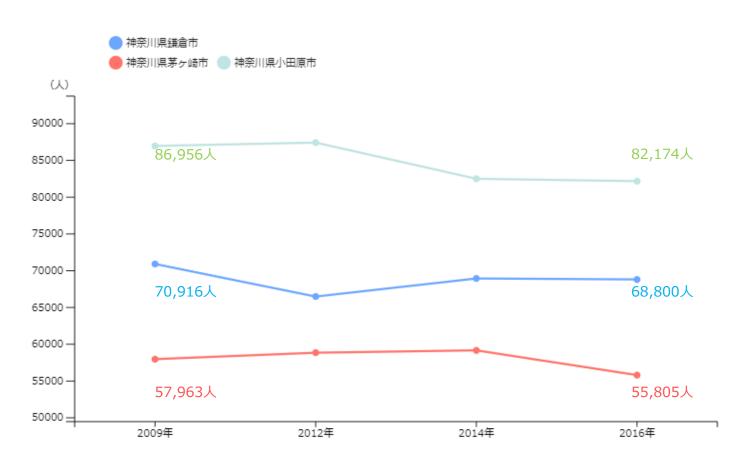
従業者数の推移をみる。

2016年の従業者数は68,800人。

7年前の2009年と比較すると

3.0%減である。

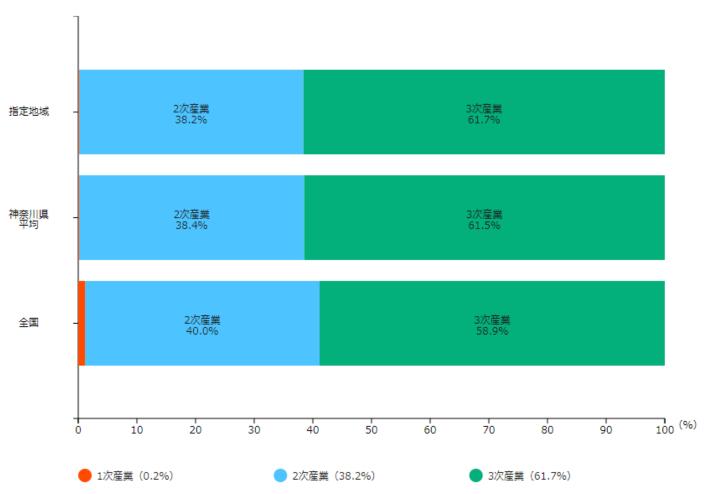
他地域をみると、小田原市は5.5%減、 茅ヶ崎市は3.7%減となっている。



地域内産業の構成割合

鎌倉市の産業の構成割合を全国および 神奈川県と比較したグラフである。 鎌倉市は神奈川県平均とほぼ同値で、 全国平均より 第2次産業の割合が2%ほど低く、 第3次産業の割合は2%ほど高い。

地域内産業の構成割合



3.小売業・卸売業

年間商品販売額の推移

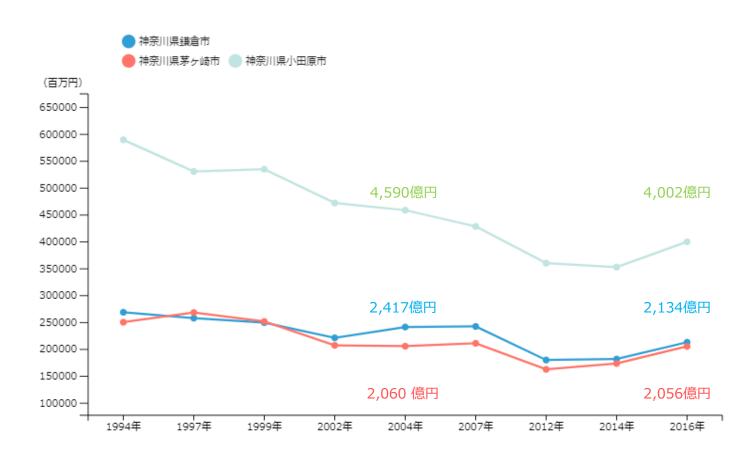
小売業・卸売業の年間商品販売額の推移 を示したグラフである。

鎌倉市の販売額は2,134億円。

- 12年前の2004年と比較すると
- 11.7%減である。

他地域をみると、小田原市は12.8%減、

茅ヶ崎市は0.2%減となっている。



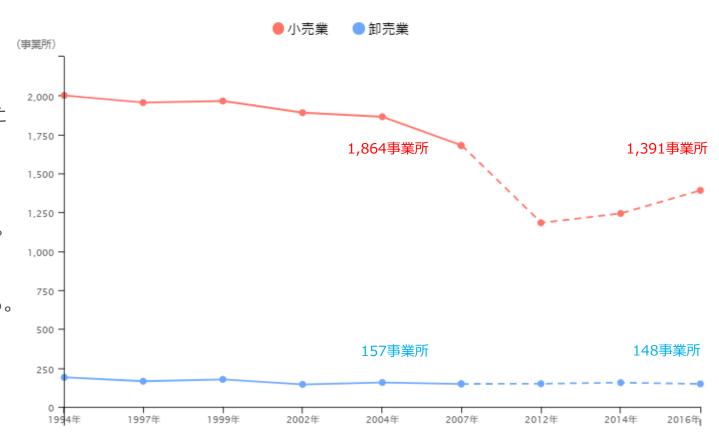
3.小売業・卸売業

事業所数の推移

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。

2016 年の事業所数は、

小売業1,391 事業所、卸売業148 事業所。 12年前の2004 年と比較すると小売業は 25.4%減、卸売業は5.7%減となっている。



4.製造業

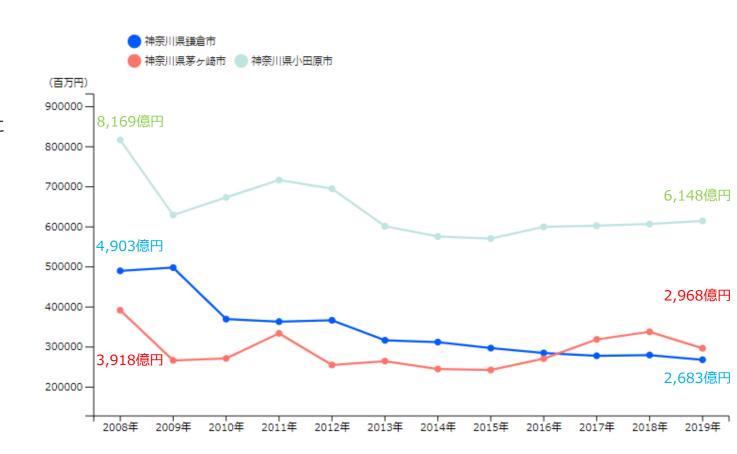
製造品出荷額等の推移

製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフである。

鎌倉市の出荷額等は2,683 億円。

11年前の2008 年と比較すると 45.3%減である。

他地域をみると、小田原市は24.7%減、 茅ヶ崎市は24.2%減となっている。

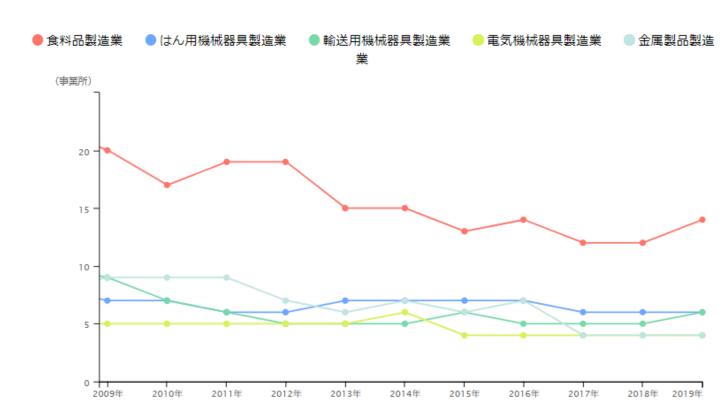


4.製造業

事業所数の推移

主要製造業の事業所数の推移を示したグラフである。

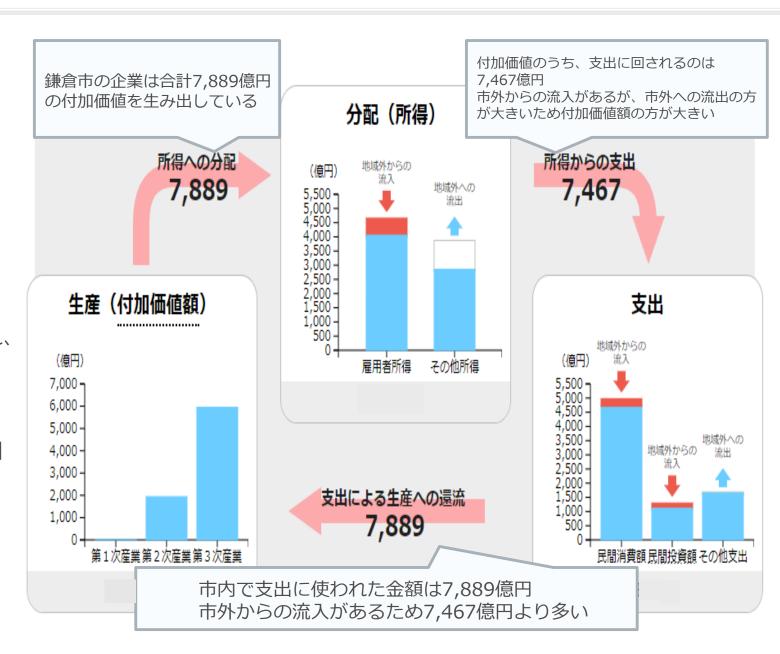
鎌倉市には食料品製造業が多い。 しかし10年前の2009 年と比べると、 食料品製造業の事業所は30.0%減少 している。



5.地域経済循環

地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて 生産された付加価値は、 労働者や企業の所得として分配され、 消費や投資として支出されて、 再び地域内企業に還流する。 この流れを示したものが地域循環図 である。



5.地域経済循環

総額:7,889億円

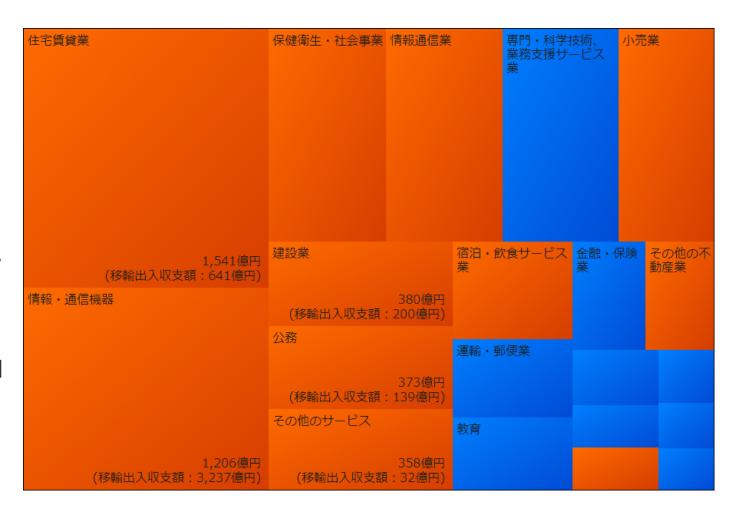
生産分析(2015年)

前ページの生産(付加価値)の内訳を 面の大きさで示したグラフである。 付加価値が高いのは

「はん用・生産用・業務用機械」、

「住宅賃貸業」、「情報通信業」である。 なお、グラフの色は、赤色が「域外に 移輸出して稼いでいる産業」、青色が 「域外からの移輸入に依存している産業」 を表している。

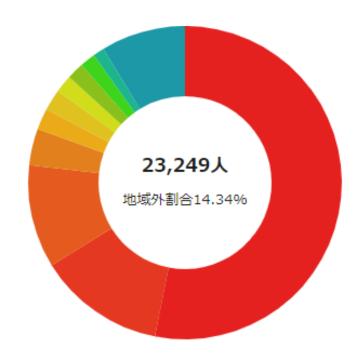
鎌倉市の上位3業種はすべて赤色であり、 地域外から稼いでいる産業であることが わかる。



6.まちづくり・観光

From-to 分析(滞在人口) (2022年 6月)

休日、14 時にどの都道府県から観光客 等が来ているかを示したグラフである。 東京都が53.0%ともっとも多く、 埼玉県13.1%、千葉県10.6%が続く。



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 東京都 12,334人(53.05%)
- 2位 埼玉県 3,049人 (13.11%)
- 3位 千葉県 2,470人(10.62%)
- 4位静岡県879人(3.78%)
- 5位 茨城県 511人 (2.20%)
- 6位 愛知県 507人 (2.18%)
- 7位 大阪府 427人 (1.84%)
- 8位 群馬県 406人 (1.75%)
- 9位 栃木県 372人 (1.60%)
- 10位 山梨県 266人 (1.14%)
- その他 2,028人 (8.72%)

6.まちづくり・観光

目的地検索ランキング (2022 年3 月・休日)

自動車で経路検索された回数が多い場所を ランキング形式で示したグラフである。 「鶴岡八幡宮」「高徳院」「長谷寺」

「銭洗弁財天」と歴史的な寺社仏閣の検索

回数が多い。

